



「はじめに、今シーズンを振り返っていただきますか。」
水野 当初の目標であった有明進出を果たすことができた。レギュラーシーズンは3位でしたが、プレイオフを勝ち上がってイースタン・カンファレンスを優勝することができて、非常に素晴らしい成績を残すことができた本場に良いシーズンだった。ただ、最後に琉球ゴールデンキングスに敗れて悔しい思いもしたので、改めて日本一を目指していきたいと思っている。



▲インタビューに答える水野社長

bjリーグ参戦4年目で初めての有明進出。さらに、東北地区のチームで初めてイースタン・カンファレンスを制覇。惜しくも優勝は逃したものの2013-2014シーズン、ハピネットスは大きく飛躍した。実り多かった今シーズン、そして創設5年目の節目となる来シーズンに向けて水野勇気社長が語った。

**水野社長インタビュー
「改めて日本一を目指したい」**



▲有明コロシアムをピンク色に染めた世界の秋田ブースター

「ホームゲームはもちろん、プレイオフでは若手や有明にも本場に多くのブースターの方が詰め掛けました。」
水野 本場に熱いブースターの皆さんの応援はチームにとって力になったし、相手チームには脅威になったと思う。1試合平均観客数も琉球に次ぐ観客数を記録して、年々、盛り上がり方がグリードアップしているのを実感している。日本一のブースターと言っているのもいいぐらいの熱い応援と、熱いけれど温かみのある応援してもらった。岩手との試合では1300人のブースターが詰め掛けてくれたことで勝つことができて、有明

「ハピネットをつくりたいと思ったきっかけが、学生時代にオーストラリアに留学したとき、スポーツチームがそこに住む人たちに夢や希望を与えていたのを感じたからと聞きました。ハピネットが誕生して4年経ちましたが、現在の盛り上がりをごどのように感じていますか。」
水野 まだまだ広がる可能性はあると思っている。一年一年の積み重ねで観客数も伸びてきて、その積み重ねの結果が今の盛り上がりにつながっていると考えているし、5年目の来シーズンもステップアップしていけるように我々は頑張らなければならぬ。まだ、試合を観に来たことが無い人もたくさんいるので、そういう人たちに足を運んでもらえるように努力していきたい。観客数が一番多いのは琉球で、ハピネットは2番。琉球を超えたいし、超えられるポテンシャルもあると思っている。目指しているのは日本一のプロバスケットボールチーム。日本一というのは、当然チームの強さもあるし、それに加えて

にも3000人を超えるブースターが来場した。有明をピンクで染めて、試合前に県民歌を歌ってくれて、本当に感慨深いものがあった。自分が有明に行きたいと思っていたのは、当然、優勝したいという気持ちもあるけれども、東京で秋田の存在を發揮したいという思いがずっとあったから。6年ぐらいた前のファイナルズで琉球のすごい応援を見て、秋田もこういう存在になって、東京で秋田の力を発信したいと思った。それが、今回の有明で、できたんじゃないかなと思っている。琉球の人びつくりしていたし、「応援では負けたい」と話していた。



2013-2014 SEASON
HAPPINETS TIMES

ハピネットタイムズ
マンスリー

秋田ノーザンハピネット公式サイト
www.happinets.net

2013-2014シーズンブースタークラブ
クラブハピネット



たくさんのご入会
誠にありがとうございました!

2013-2014 SEASON 会員数

4,140 人

2013-2014 SEASON 貯金額

3,753,900 円

twitter
ビッキーのつぶやき

Find BICKY and
join HAPPINETS!!
フェイスブックでつながろう

アリーナのある未来
AKITA 2024
☑ご意見はこちら



HAPPINETS INFORMATION

2014-2015シーズン
**クラブハピネット
会員大募集!**

クラブハピネット会員
目標 **10,000**人 大作戦





—中村和雄HCが退団して、中心選手の富樫勇樹選手もチームを離れてアメリカで挑戦することになりました。来シーズン以降のチームづくりについて教えてください。

水野 日本人選手のエースだった富樫選手が抜ける影響は確かに大きいですが、富樫選手にとって必要なことだと思っているので、これからもチームとしてできるだけバックアップしてあげたい。今シーズン在籍した日本人選手がほとんど残ってくれたし、ドラフトでもPGを1人補強することができた。若い選手が多いし、今回の悔しい思いが力を伸ばすきっかけになってくれると考えている。さらに、もう一人補強することも計画しているし、外国人選手との融合で十分、優勝を狙えるチームを作っていると思っている。長谷川新ヘッドコーチからは「スピードのある速いバスケットボールを目指していきたい」と聞いている。その上で中村HCが残してくれた勝つことへの執着心は大事にしていかなければならないし、選手たちには我々は常に優勝を狙うんだというスタンスをしっかりと



▲球団設立に向けて署名活動を行っていた頃。今ではリーグ屈指の人気チームにまで登りつめた

て会場の盛り上がりやお客さんの数など、県民球団として、県民誰にも応援して愛してもらえらるようなチームを目指していきたいと思っいる。それが、日本一のプロバスケットボールチームだと考えている。

2014-2015
シーズンを熱く応援を
よろしくお願いします！



▲2014-2015シーズン、有明に置いてきた忘れ物を取り行く戦いが始まる

—最後にブースターや県民の皆さんにメッセージをお願いします。

水野 来シーズンは5周年という節目のシーズンになる。我々が目指している永続できるチームに向けてさらに飛躍できるシーズンにしたいと思っっている。長谷川新ヘッドコーチの下、しっかりと優勝を狙える常勝チームを作っていきたい。新たなシーズンに期待してほしいし、引き続き熱い応援をいただきたい。

—琉球は地元の選手を中心にしたチーム編成で優勝を遂げました。地元の選手を中心としたチーム作りについてはどう考えますか。

水野 確かに地元の選手を中心としたチームが理想だと思っっている。そのためにやっていかなければならないのが秋田県内の選手の育成。そのためハピネッツではジュニア選手を育成するために9月にスクールを開校することを計画している。勝利も目指しながら秋田県出身の選手たちでチームを構成していくのは簡単にはいかないと思っっているが、将来へつなげていくためにも、しっかりと取り組んでいきたい。

りと持っていてもらいたい。また、プロ選手として、練習や試合での取り組みやブースターとの接し方なども、もっともっとと自覚してもらっうことでチームとして成長していききたい。まだ、ハピネッツは来年で5シーズン目の若いチームで、ハピネッツというチームの文化を作り上げてている段階。選手たちには常勝チームを目指して、しっかりとやるべきことをやってもらいたい。

HAPPINETS INFORMATION

HAPPINETS
Magazine **TAKE FREE**
vol.06
6.23発行!!!
秋田には世界一の
ブースターがいる

AKITA NORTHERN
HAPPINETS
bj-league 2013-2014 SEASON
秋田ノーザンハピネッツブースターマガジン

HAPPINETS
Magazine
ECC
Finals
2013-2014
ファイナルズコラム
シーズンレポート
2013-2014 season
ブースター感謝祭

HAPPINETS 2014.6
VOL.06
TAKE FREE

秋田には世界一の
ブースターがいる

Interview with
#0 富樫勇樹